

小児在宅生活支援地域連携シート《府基本版》について

1（本シート作成の目的）

在宅高度医療児が、在宅移行後、児の成長とともに必要となる保健、医療、福祉、教育等の様々なサービスについて、サービスの内容、サービスが必要となる時期、サービスを提供する関係機関を明確にするとともに、関係機関間でこれらの情報を共有するため、府基本版として本シートを作成する。

2（本シートの意義）

本シートは、関係機関のネットワーク構築のためのツールとして活用する。

関係機関は、本シートを活用し、児や家族の現状、ライフステージに応じた課題について共通認識を持ち、相互の役割を理解し、児や家族にとってよりよい対応策を検討していく。

3（本シートの内容）

- (1) 在宅において人工呼吸療法及び気管切開等重症度の高い児を主な対象とする。
- (2) 短期版（退院前調整期～退院後 1 年）及び長期版（退院前調整期～18 歳頃まで）の2種類のシート（別紙）からなる。
- (3) シートに記載した関係機関の主な役割・サービス内容等の情報を共有するため、「在宅高度医療児 関係機関情報資料」を活用する。

4（本シートの活用方策）

現在府保健所が地域のコーディネーターとなり、地域における在宅支援ネットワークの構築を推進しているが、平成25年度以降は、本シートを参考に、各保健所において個別の事例について地域の状況に応じた「小児在宅生活支援地域連携シート《個別事例版》」を作成していく。

小児在宅生活支援地域連携シート《個別事例版》の作成にあたっては、次の点に留意する。

- ① 医療的ケアの重症度に係わらず、カンファレンスや事例検討等で本シートを活用しながら、現在の課題に対する各関係機関の役割を整理し、明確化していく。
⇒ シートでは重症度の高い児を対象としているが、活用場面では、重症、軽症に捉われないで利用する。
- ② 児や家族の変化に応じて、関係機関、支援時期等について適宜追加・修正を行う。
- ③ ケースに応じて、短期版、長期版の両方またはどちらか一方を作成する。
- ④ ケースによっては、家族とともに作成、活用する。
- ⑤ 地域の支援サービス内容等については、日頃から情報収集・整理を行い、迅速な対応を図ることができるようにしておく。